

学ぶ内容地図でひと目で

横浜・都筑区 小中4校の校区

地元の人との関わり盛り込む

横浜市都筑区の市立東山田中学校と近隣の山田、北山田、東山田の3小学校の校区で活動する「東山田中学校ブロック地域学校協働本部」が、ユニークな「地図」を作成している。手に取ると、小中学校の各学年での学びの内容と、そこに地域の人たちがどのように関わっているかがひと目でわかるようになっていく。

新聞を広げたぐらいの大きさの「まちのたからMAP」。

地元の農家や消防団、地域の昔の話をしてくれる人たち、各学校の見守りボランティアなど、児童生徒が日頃から授業でお世話になっている人たちが、4校周辺の地図の中で写真付きで紹介されている。

裏側には、小中学校の各学年で、地元の人や施設と関わりながらどんな授業をするのかが分かる一覧表「『まちのたから』を学ぶ

に活かす9年間」が印刷されている。

例えば「生活科・総合的な学習」の欄。小1では「昔遊び」「獣医さんのお話」、小2では「トマトと大根の先生」「まちたんけん」などと記されている。

また、中学で学ぶ内容を見ると、1年からキャリア教育が始まり、3年では地域のボランティアに協力してもらって高校受験対策の模擬面接が実施される。この一覧表では、教室で学ぶことは赤色の文字で、地域に出て学ぶことは青色の文字で表記されている。

東山田中学校は2005年、県内初の「コミュニティ・スクール」として開校した。学校と保護者、地域住民が学校運営を巡って協働するものだ。開校当初から、地域と学校の結びつきは強い。

地図と一覧表は16年度の事業として、学校の先生や地域コーディネーターらが話し合いながら作った。

作成に参加した東山田中学校ブロック学校運営協議会の竹原和泉会長によると、きっかけは「社会に開かれた教育課程ってなんだろう」という疑問だったと

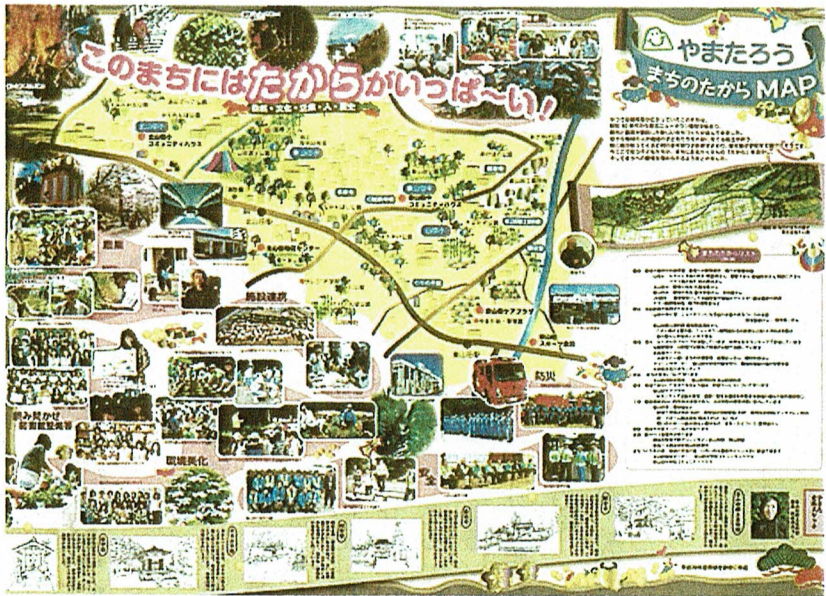
いう。仲間と話している時、よく出てきた話題だった。それを目に見える形にしよう、地図と一覧表作りに着手したという。

当初は先生やボランティア、地域コーディネーター向けに3千部を作成した。中学校の先生からすると、入学してきた生徒が小学校で何を経験してきたかが分かる。小学校の先生からすると、先々の学びの内容が分かる。各家庭にも配ることが早々に決まり、追加で3千部を印刷した。

作成メンバーで地域コーディネーターの深沢純子さんは「地域の人が関わっているのが一目瞭然。普段地元を歩いているけど、子どもが授業で接したのが『あの人』とすぐに分かる」。竹原会長は「保護者にとって、9年間、地域でどうやって育つのかイメージができる」と言う。

学校関係者や保護者には好評だったほか、独立行政法人・教職員支援機構が研修用に作ったテキストの中で取り上げ、「社会に開かれた教育課程」の具体例として紹介している。

この地図と一覧表は今後も、内容を改訂しながら、小学校や中学校の新生児らに配られるという。地図などについての問い合わせは、東山田中学校ブロック地域学校協働本部（メールアドレス：higashiyama-ata-p@tsuzuki-koryu.org）へ。（大脇真矢）



まちのたからMAP